

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 8月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2271100873
法人名	株式会社日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム春
所在地 (電話番号)	静岡県沼津市岡一色450-1 055-925-6600
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 15日
ユニット数	3 ユニット
職員数	25 人
利用定員数計	27 人
常勤	14 人
非常勤	11人
常勤換算	11.7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	65,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月10日現在)

利用者人数	23 名	男性	7 名	女性	16 名
要介護1	10 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.61 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック 石田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沼津市郊外の東名インター近くの住宅街に立地し落ち着いた環境にあるホームである。ホーム長のリーダーシップの元に各種委員会を立ち上げその活動を中心に、業務優先ではなく介護優先のホーム運営を行い、利用者の穏やかでゆったりとした雰囲気が窺えるホームである。定期的な運営推進会議の開催と活用による地域との協力関係の構築や家族との信頼関係も作られているので、今後は職員の安定化やレベルアップへの更なる取組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の交代等の影響もあったがホーム長のリーダーシップの元に改善への実績が確認出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取組みも各ユニット毎に全職員で話し合い、現状のありのままを認識し、今後の課題解決への取組みが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の外部評価以降、地域関係者の出席が期待出来る日を年間計画に織り込み2ヶ月毎の定期開催を実施している。ホームの状況報告や防災協力依頼などを行い、また、認知症サポート講演を開催するなど地域との交流関係を構築している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情対策委員会を中心に、面会時や電話連絡などを通し家族の意見・要望などを聞きながら対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の会合・活動への参加や、地域行事・町内清掃・防災訓練などに参加し、門池祭りや産直市へ出掛けるなど利用者也楽しみながら地域の一員として交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で作上げた運営理念や倫理規定10ヶ条を元に、利用者の充実した生活が送れるよう日々のケアに取組み地域との交流も積極的に行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、利用者や家族へも見えるよう居間に掲示され、業務優先ではなく介護優先の実現に向けた話し合いを行い、各種委員会を立ち上げ職員同士確認し合い、理念に基づいたケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合・活動への参加や、地域行事・町内清掃・防災訓練などに参加し、門池祭りや産直市へ出かけるなど利用者も楽しみながら地域の一員として交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の交代等の影響もあつたがホーム長のリーダーシップの元に改善への実績が確認出来た。自己評価の取組みも各ユニット毎に全職員で話し合い、現状のありのままを認識し、今後の課題解決への取組みが期待される。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価以降、地域関係者の出席が期待出来る日を年間計画に織り込み2ヶ月毎の定期開催を実施している。ホームの状況報告や防災協力依頼などを行い、また、認知症サポート講演を開催するなど地域との交流関係を構築している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市によるグループホーム連絡会や研修会などの参加や、事故報告、利用者や事業所としての相談などを通して関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員より、利用者個々の様子のお便りや金銭出納書コピーを送り、日常生活の報告を行っている。又、随時「春だより」を発行し運営推進会議やホーム行事の報告を行い、電話や面会時などで家族との対話を図っている。今後は家族会の開催も企画し家族との交流を深めていくとのことである。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対策委員会を中心に、運営推進会議での意見や面会時・電話連絡などを通し家族の意見・要望などを聞きながら対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動はなるべく最小限に抑える努力をし、ユニット間の交流などで対応しているが、止むを得ず離職の場合は環境が落ち着くまで利用者へは伝えず影響を防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修会参加や、研修委員会での基礎研修やテーマ別の外部研修受講等ホーム内勉強会推進を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム連絡協議会での情報交換や系列グループホームと相互交流などの機会はあるが、職員間の交流までには至っていない。	○	他のグループホームを見ることにより多くの気づきを感じ取れ、また交流によってホームの中で行き詰まったときに他の視点からのアドバイスを得ることも出来るので職員レベルでの相互訪問の機会を是非作っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、生活歴、性格等を聴き、体験入居などの機会もあり、家族とも相談をしながらその場の雰囲気や職員に徐々に慣れるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活のパートナーとして過ごすように心掛け、身の回り・家事一般が出来るよう利用者と一緒に行動することで充実した生活が送れるようにさりげない支援に徹している。食事の作り方や生活の様々な知恵を教してもらいながら利用者との信頼関係作りを大切に考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員は日々のコミュニケーションを大切にしており、思いや希望の把握に努めている。またセンター 방식을基本にホーム独自のアセスメント・シートを作成する等、本人や家族の意向を汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者の急な交代があり、やや混乱した時期があった様子も見えたが、現状は安定している。一貫して利用者本位の介護計画となっており、全職員が共有しやすい、工夫された内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に更新されている。職員は日常のコミュニケーションの中で家族への説明を実施しているが、同意欄に署名、捺印がない。	○	介護計画書の更新時には、内容に変更がない場合においても説明、同意と共に署名、捺印を求めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない場合や緊急時の受診体制があり、家族の宿泊、食事にも対応している。また、3ユニットの利点を生かし、他のユニットとの交流により非日常の演出を行なっている。行事や外出時には同一法人の車輛を借用できる等、組織の力を生かす場面が多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時の話し合いにより、ホームの協力医療機関にするか否かを、利用者、家族の判断で決めている。協力医療機関からは頻りに往診が受けられる体制が整い利用者、家族の信頼を得ている。他の医療機関を希望する場合は受診の支援も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針が明確であることから、管理者、職員共に看取りに関する心構えが出来ている。現状では準備段階ではあるが、基本指針や同意書等の書類も整備され、家族のニーズに応える用意がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要書類は鍵のかかる書庫に整理され、パソコン、電子媒体の管理も充分配慮されている。また、職員は利用者の尊厳や羞恥心に配慮した静かな声かけを励行しており、プライバシーを守る心構えが出来ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は居室や共有空間を自由に行き来しながら、ゆったりと自分のペースで生活している。職員は日常のコミュニケーションの中から希望や訴えを汲み取り、本人らしい生活を確保できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理、配膳や片付け等まで利用者が関わり、食事を楽しむ体制を作っている。また、職員が利用者と同じ食事を、同じテーブルで食べる事で家族的な雰囲気を作っている。出前やコンビニ弁当、外食等、社会と関わりながら食事を楽しむ機会も提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めずに、自由に入浴できる体制がある。入浴を好まない利用者には声かけを行い、時には外部の温泉等を利用して週2回以上の入浴を促している。また、家族による入浴介助もあり、入浴を楽しむ支援が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の調理や片付け、洗濯、掃除等、本人の能力を生かした役割分担があり、利用者は嬉々として取り組んでいる。また、草木の世話や手芸、毎月の行事での役割を持ち、生活を楽しむための支援も実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には散歩、散策に適した場所があり、散歩や外出は頻繁に実施されている。遠方の外出には職員が付き添い、法人の車輛を利用した遠足や外食の支援も提供されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	単独型、新築のホームであり、鍵をかけずに目が行き届くよう良く配慮された建築となっている。職員は転倒や事故に配慮しながらも利用者の自主性と尊厳を奪うことなく、暖かく見守る姿勢でケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は地域の住民と共に実施しており、近隣の住民にホームを見学してもらおう等、災害時の協力を構築している。また2～3階の避難経路については消防署との合意が出来ており職員の意識も高い。消火器等の備品や備蓄食料も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の嗜好を考慮しながら、栄養のバランス、塩分等への十分な配慮をしている。また管理者は地域包括支援センターを通じて管理栄養士から専門的な助言を得ることが出来るシステムを作り上げた。食量、水分量の記録も良く出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく大きな窓の食堂や廊下等の共有空間は、危険なく整理整頓された中にも生活感のある、暖かな空間となっている。季節の花や観葉植物が配置され、壁や棚には利用者の手芸や絵などの作品が飾られている。食堂は利用者が自然に憩う安らぎの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた家具や思い出の品々を持ち込み、その人らしい個性あふれる部屋が多く見られた。好みにより畳を敷いたり、長年使い馴染んだ椅子を持ち込む等、思い出と共に暮らす居心地の良い空間となっている。		